

委員会の動き

総務委員会

★双海地域事務所空調改修工事についての質疑に対し、4120万円で庁舎全体をヒートポンプ方式で実施するとの答弁があった。

★防災無線を広報区の放送等に利用可能となるシステム導入について、放送のルール・モラルはどの質疑に対し、広報区長会で地域並びに公的な放送のみの利用ということをお願いしており、ルール作りはできているとの答弁があった。

★全国瞬時警報システム改修工事に関し、整備状況はどの質疑に対し、本市のように防災無線と連動し、情報を伝達する団体は275団体であるとの答弁があった。

★消防署庁舎改築のスケジュールはどの質疑に対し、予算議決後22年度に造成・設計予算、23年度に建築工事の予算を計上、23年度末頃を目標に改築事業を進めたいとの答弁があった。

★水道事業会計補正予算につ

いて、用地買収（宮下）の面積、建設の概要についての質疑に対し、面積は約3400平方メートル、膜ろ過施設や電気設備棟、浄水を貯める池等を設置する予定である。なお、処理能力は森水源地の5倍ほどの施設を計画しているとの答弁があった。

民生文教委員会

★佐礼谷診療所の施設と医師住宅等無償貸付けについて、医療機械の修繕補修と更新についての質疑に対し、通常の修繕補修は借受者の負担で災害等による破損等は市が行い、更新は借受者の負担である。

★民営化についての地域住民との話し合いで、問題点は出なかったのかとの質疑に対し、将来に対する運営の不安が主なもので、地元や医師と協議を行ってきた。現在、契約の案を地元と医師へ提示しており、この議決後、正式に取り交わすことになる。また、市と地元と医師の間でも、診療所の運営についての覚書を取り交わす予定で、市としても、将来にわたって地域医療、診療所の運営を守っていききたい

との答弁があった。

10年間運営が継続できなくなった場合の対応については、医師の都合による場合は、医師の責任で新たな管理運営者を探していただく努力規定を取決め、覚書等に盛り込みたいとの答弁があった。

★郡中児童クラブ及び南山崎児童クラブ新築工事に関し、設計は利用者を含め、十分に検討されているのか、また、木造建築に対して県の補助制度をなぜ利用しなかったのかとの質疑に対し、担当職員・児童クラブ指導員・市の技師も参加して設計業者と協議をしながら設計している。

★県の補助制度を利用するには、設計の見直し等が必要で着工までの時間がかかるため、国の経済活性化交付金で全額賄うことで計画したとの答弁があった。

産業建設委員会

★太陽光発電システム設置事業補助金について、県内自治体の補助実施状況の質疑に対し、現在9市町が住宅用の設置補助を行っており、松山市では法人による補助も行っている。本市の要綱では、1キロワット当たり7万円、4キロワット限度で28万円の補助を行うとの答弁があった。

★木材乾燥機導入経費補助について、事業の助成を受ける製材業者は、申請の際に地元への同意は必要なのか、また、事業説明を行っているかとの質疑に対し、この事業自体は、同意を必要としないので、行政からは求めていないが、事業主が地域関係住民に、事業説明会を計画しているとの答弁があった。

★また、施設の運転方法についての質疑に対し、従来の施設は廃止せず継続して稼働するが、今回、新設する施設を主に稼働する予定であるとの答弁があった。

★ほたる水車小屋水路補修工事について、コンクリート張りとする中で、翠地区のほたる激減に拍車がかかるのではないかと質疑に対し、現在の水路は石を積んだ雑石張り、漏水も激しいことから、今回の工事となった。効果的な、ほたる養殖活動ができるよう、詳細については、ほたる保存会と十分な協議を行い、ほたるの保護に努めたいとの答弁があった。

編集後記

初めて編集委員になった21年前を振り返ると、編集とはとても言える状態ではありませんでした。編集会議に臨むと、完成一步手前の議会だよりが用意されていました。我々がやったことと言えば、誤字・脱字・数字・てにをはの訂正など、校正程度でした。

当時の議会だよりは、どの一般質問を誰がしたのかさえわかりませんでした。今では、ほとんどすべてと言っていい位、各委員が手分けして書いており、表紙を始めたとした写真もすべて撮影しています。編集後記ですら、職員の仕事でした。そのことを思うと隔世の感であります。

近い未来に、一切議会事務局の手をわずらわすことのない編集に脱皮したいものです。

文責 水田 恒二

議会広報調査特別委員会

- 委員長 武智 邦典
- 副委員長 日野 猛仁
- 委員 北橋 豊作
- 委員 高井 洋一
- 委員 門田 裕一
- 委員 武智 恒実
- 委員 水田 恒二